

表紙も、本文と同じサイズの紙で、

## 見栄え良く製本する方法

先ず、L型サイズの表紙2枚を作ろう

### 左開きA5判冊子を例にして説明、後は応用

本文は、A4サイズの紙を両面印刷して、二つ折りにして束にします。

この編集と印刷の仕方は、別項に詳しく説明しています。

- (1) 見返し紙も、本文と同じサイズのカラーなど別紙2枚を、二つ折りして上の本文の紙束の初めと終わりにカバーします。
- (2) そのまま、製本機に挿入して、背にボンドを塗り、「コ」の字型の短冊状補強紙を接着して、乾燥を待ちます。(慣れてくると、補強紙を使わないでも可能です。)

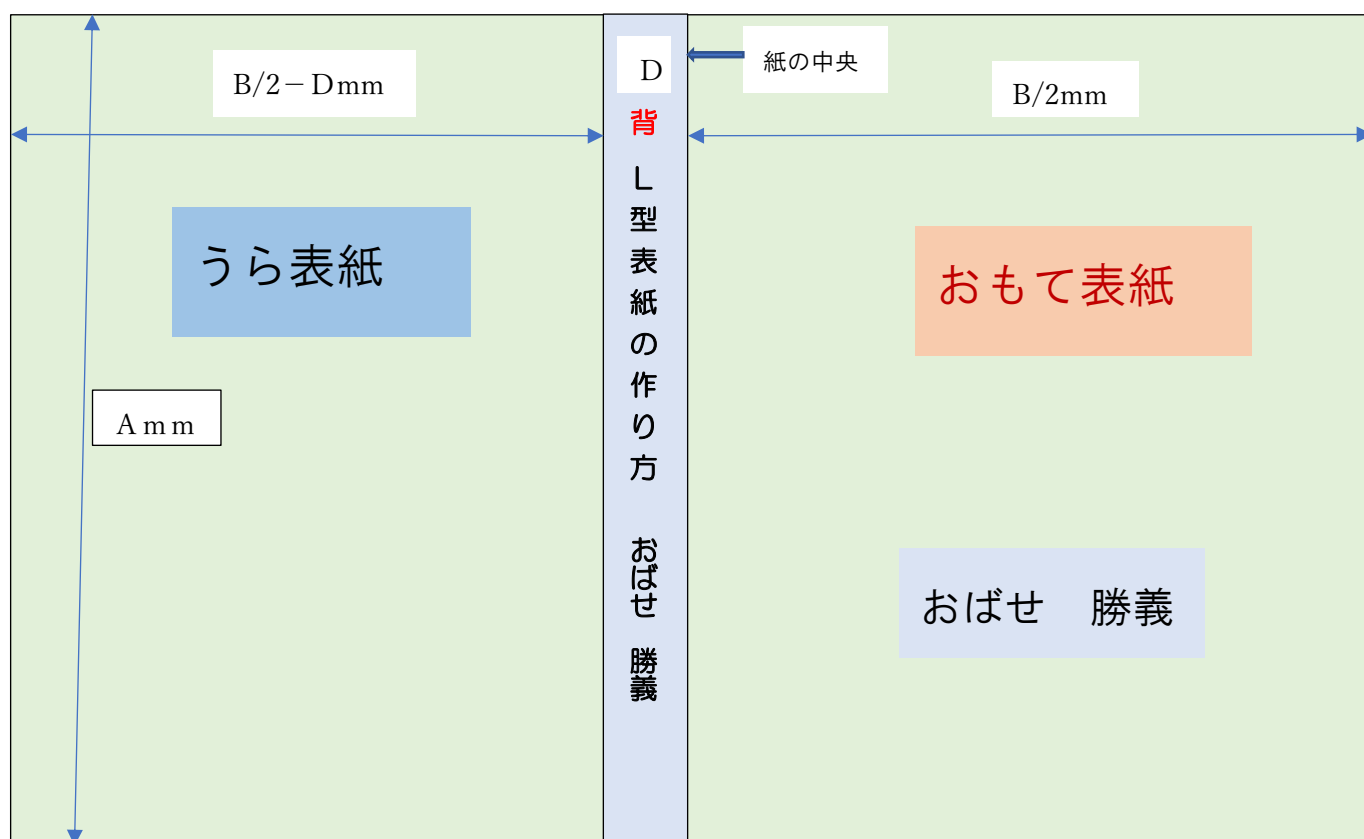
この間に、表紙づくりをします。

- (3) 表紙は、少し厚めで、本文の紙と同じサイズのA4用紙を使います。ワードで、下記の図のように、レイアウトを、A4用紙横向きにして編集します。表紙は、縦書きや横書きの文字、画像などが入り混じるので、メニューの「挿入」⇒「図形」⇒「文字矩形」の順にクリックして、下記の図のように編集します。これらの矩形の図形は、自由に移動することも、定位置に固定することも、枠の線の種類・太さは自由に選択でき、かつ削除も可能です。模様など、背の部分も同じ図柄を使うと、製本後はいちまいの表紙で作ったように綺麗で、かつ、背の強い冊子が完成します。

このような表紙を一度作っておくと、サイズの違う冊子の表紙づくりにも大いに応用できます。

A4用紙の短辺 A mm、長辺 B mm、背の厚さ(本文と見返し紙の束) D mm

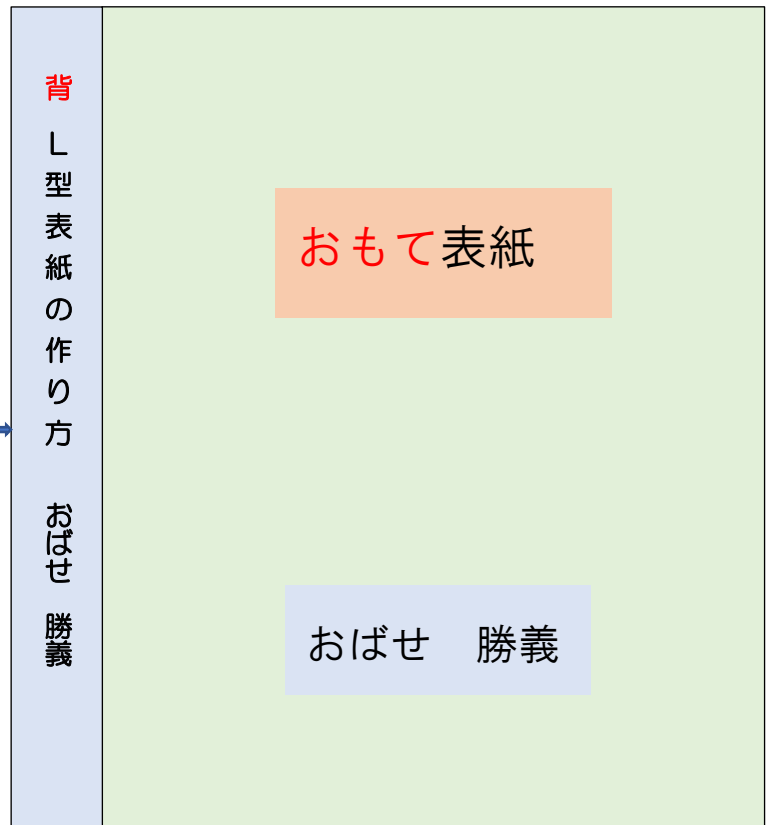
- (4) 背幅Dmmだけうら表紙に寄せて印刷する。
- (5) 背幅Dmmをおもて表紙側に寄せて印刷する。



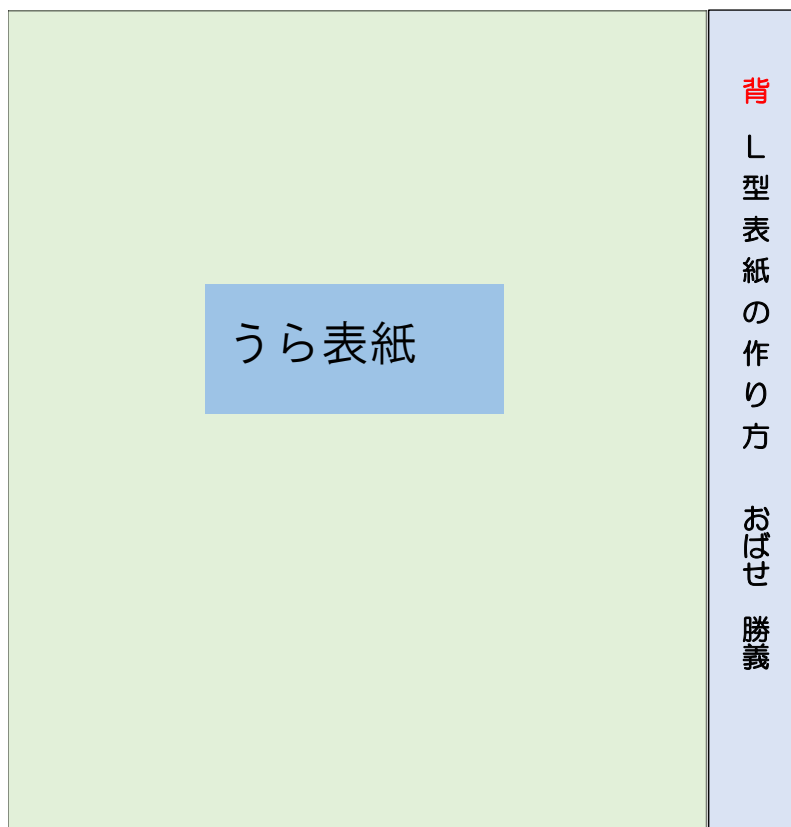
- (6) おもて表紙をつくる。  
背の左端をカットして、  
紙を裏返しにして、  
背の部分を、定規を使って、  
裏側へ直角に折り曲げる。

これで、おもて側の「L型表紙」が完成。

カット →



- (7) うら表紙をつくる。



背の右端をカットして、  
紙を裏返しにして、  
背の部分を、定規を使って、  
裏側へ直角に折り曲げる。

これで、うら側の「L型表紙」が完成。

- (8) いよいよ製本完成へ。

イ) (2) で製本した本文の背に、(7) で作ったうら表紙をボンド付けします。

ロ) その上から(6) で作ったおもて表紙の背の部分だけを、重ねてボンド付けします。

(9) 製本機ごとそのまま一緒に逆さまにして、固いテーブルなどの上に固定します。

そうすると、製本機と冊子の自重で、背中が真っ直ぐになり綺麗に接着していきます。

(10) ある程度時間が経って乾燥したら、製本機から外して、表紙と見返し紙の接着作業をします。

ここは、「基本の製本術」の項を参照して下さい。